

とだ がはら たの まな
戸田ヶ原を楽しく学ぼう！

とだ がはら 戸田ヶ原ワークブック



とだ がはら しぜんさいせい
戸田ヶ原自然再生キャラクター

とだみちゃん

はじめに

戸田市では、かつての戸田を代表する自然であり、ふるさとの風景である「戸田ヶ原」の再生に取り組んでいます。

戸田市に暮らし、学ぶ多くの方々に、戸田ヶ原やその再生の取り組みについて知ってもらえるよう、このワークブックをつくりました。

戸田ヶ原の再生は、大人も子どもも一緒に力を合わせて進めています。このワークブックを読んで、みなさんが戸田ヶ原に興味を持ち、再生の取り組みに参加してもらえると、うれしく思います。

もくじ 目次

ページ	内容	ページ	内容
1	戸田ヶ原のあゆみ	13	カヤネズミ
3	戸田ヶ原の自然	15	カワセミ
5	サクラソウ	17	戸田市にくらすチョウ
7	サクラソウの花見	19	ミドリシジミとハンノキ
9	戸田の名がついた生きもの	21	戸田市にくらすトンボ
11	キツネ	23	外来の生きもの

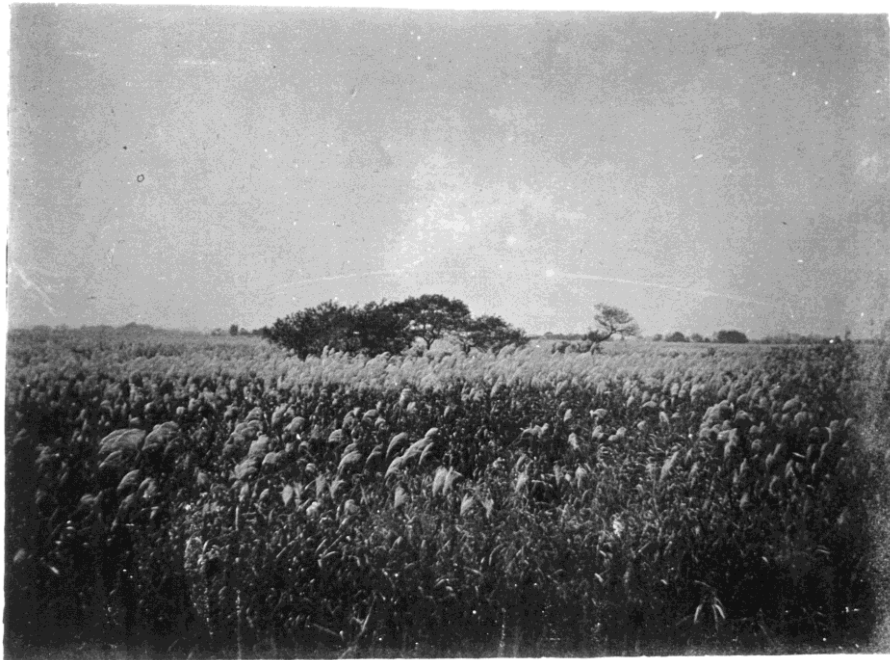
とだ が はら 戸田ヶ原のあゆみ

『戸田ヶ原』は、昔、戸田の荒川沿いに広がっていた草はらです。そこは、春になると見渡す限りサクラソウが咲いていたそうです。江戸時代には、サクラソウの咲く場所として知られ、春には人々が花見に来ていました。

明治時代に入ると、多くの人々が訪れて、サクラソウを摘んだり、掘り取ったりするようになりました。そのため、大正時代の末には、戸田ヶ原のサクラソウは少なくなっていました。

その後、まちが大きくなるにつれて、戸田の荒川沿いのサクラソウの咲く草はらは失われていきました。1945年ごろ（およそ70年前）までに、戸田ヶ原はその姿を消してしまいました。

戸田市では、戸田のふるさとの風景である戸田ヶ原を取り戻そうと、2007年から自然の再生に取り組んでいます。



1920年（大正9年）の秋に撮影された戸田ヶ原



じぶん かぞく う とし くら
自分や家族の生まれた年と比べてみよう！

とだ が はらねんびょう
戸田ヶ原年表

しだい時代	ねん年	できごと
えど江戸		とだ が はら めいしよ ひろ し 戸田ヶ原がサクラソウの名所として広く知られる
めいじ明治	1868	え ど きんこう はな めいしよ えが うきよ え さんじゅうろく か せん 江戸近郊の花の名所を描いた浮世絵「三十六花撰」
		とだ が はら と に戸田ヶ原が取りあげられる
	1885	あかばねえき } おお ひとびと おとす 赤羽駅ができる } 多くの人々が訪れ、サクラソウ
	1893	わらびえき } を掘り取ってしまう
	1911	あらかわ なが か こうじ はし 荒川の流を変え工事が始まる
たいしょう大正	1916	しょくぶつがくしゃ まきの とみたろう とだ が はら 植物学者の牧野富太郎が戸田ヶ原でトダスゲを はっけん 発見する
しょうわ昭和	1940	とだ とだ が はら だいぶぶん 戸田ボートコースがつくられ、戸田ヶ原の大部分が なくなってしまう
	1947	た はた こうじょう いえ とだ が はら うしな 田畑や工場、家などになり、戸田ヶ原が失われて しまう
	1976	とだ し はな えら 戸田市の花にサクラソウが選ばれる
	1985	どうまん ち く はっけん 道満地区でトダセスジゲンゴロウが発見される
へいせい平成	1989	どうまん 道満グリーンパークができる
	1997	あらがわ か せんじき ちょうせついけ さい こ 荒川河川敷に調節池の彩湖ができる
	2007	とだ が はら し ぜんさいせい はし 戸田ヶ原の自然再生が始まる
	2010	さい こ どうまん ない とだ が はら し ぜんさいせい 彩湖・道満グリーンパーク内に戸田ヶ原自然再生工 りあ だい ごと ち リア第1号地ができる

とだがはら しぜん 戸田ヶ原の自然

あらかわ なが めいじ じだい はじ こうじ こうずい みず はや なが
荒川の流^{なが}れは、明治時代から始^{はじ}まった工^{こうじ}事^じで、洪水のときに水^{みず}を速^{はや}く流^{なが}すよう
ちよくせん か いぜん あらかわ ま なが
に直線化^{ちよくせん}されました。それ以前^{いぜん}の荒川^{あらかわ}はくねくねと曲^まがりなが^{なが}り流^{なが}れ、しばし
こうずい お かわ まわ しめ くさ ぬま はやし ひろ たい
ば洪水^{こうずい}を起^おこして、川^{かわ}の周^{まわ}りには湿^{しめ}った草^{くさ}はらや沼^{ぬま}、林^{はやし}が広^{ひろ}がっていま^{たい}した。大
しょう ねん ちず み やく しょうがっこう しきち こぶん しつち
正6年^{しょうねん}の地^ち図^ずを^みて^みると、約70ヘクタール^{やく}（小^{しょうがっこう}学^し校^{きち}の敷^{こぶん}地^{しつち}70個^{ぶん}分^{ぶん}）の湿^{しつち}地^ちが
あ^あったよう^{よう}です。

とだがはら
かつての戸田ヶ原^{とだがはら}には、サクラソウをはじめ、ノウルシやヒキノカサ、チョウ
ジソウなど、さまざま^{しよくぶつ}な植^{はな}物^さが花^{はな}を咲^さかせていたことが記^き録^{ろく}されていま^{いま}す。キ
ツネやカヤネズミ、カワセミ、ニホンアカガエル、メダカ、ミドリシジミなど、
いま さいたまけんない すく どうぶつ
今^{いま}では埼^{さい}玉^{たま}県^{けん}内^{ない}で少^{すく}なくな^{なくな}ってしま^{しま}った動^{どうぶつ}物^{ぶつ}もく^くらしていま^{いま}した。

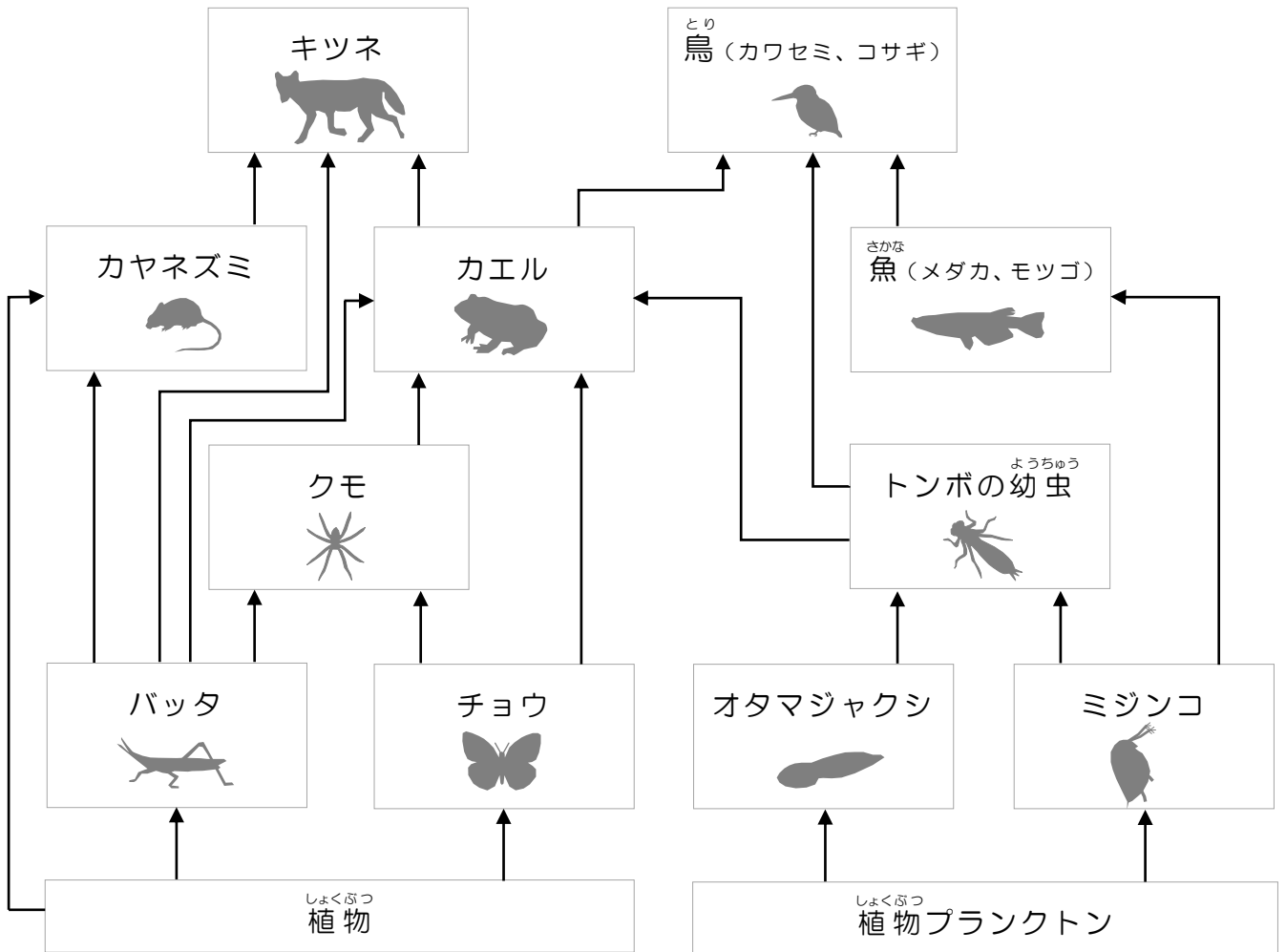
とだがはら しぜんさいせい やせい い はぐく ば さいせい
戸田ヶ原^{とだがはら}の自然^{しぜん}再^{さい}生^{せい}では、さまざま^{やせい}な野^い生^{せい}の生^いきもの^いを^い育^{はぐく}む場^ばを再^{さい}生^{せい}するこ
もくひょう
とを^{もくひょう}目^め標^{ひょう}に^にしていま^{いま}す。



とだがはら す
戸田ヶ原のイメージ図



とだがはらい
戸田ヶ原の生きものたちのつながりを知ろう！



野生の生きものは、それぞれがつながりを持って生きています。上の図では、戸田ヶ原の代表的な生きものの食べたり食べられたりする関係を示しました。食べられる生きものから食べる生きものへ矢印を描いています。植物や植物プランクトンが栄養をつくり出し、それを食べる動物、さらに食べる動物へとめぐっていきます。枯れた草木や落ち葉、動物の死体やフンなどは、菌類（キノコ、カビ）や細菌などによって分解され、植物や植物プランクトンがふたたび利用します。

サクラソウ

サクラソウは、日本では北海道から九州まで見られ、春先に草はらや林の明るく湿った場所に生えます。サクラソウは、春先に芽生えて葉を開きます。3月下旬から4月に花を咲かせ、たねをつけます。夏になるとたねが落ち、地上部は枯れてしまいます。

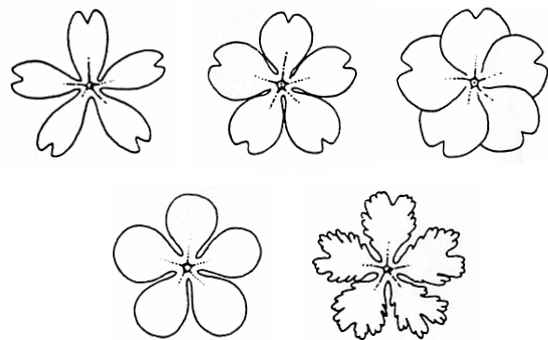
江戸時代には、荒川の下流から中流にかけて、いくつもサクラソウの咲く草はらがあり、かつての戸田ヶ原もそのひとつでした。一面に咲くサクラソウの花は、花びらの形や大きさ、色に変化に富んでいました。江戸時代の人々は、サクラソウの株を持ち帰り、園芸品種を育てて楽しみました。

開発によりサクラソウが生える草はらや林が失われ、現在、サクラソウは日本全国で絶滅を心配しなければならないほど、少なくなってしまいました。荒川の下流から中流にあったサクラソウの咲く草はらは、その多くが残っていません。

戸田ヶ原の自然再生では、戸田ヶ原や荒川の周りに生えていたサクラソウを大切に守り育ててこられた地元の方々から株を分けていただき、このサクラソウを増やして植えています。



サクラソウ



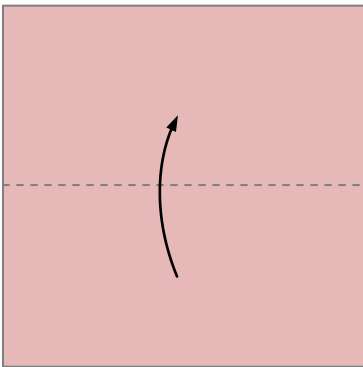
サクラソウの花の形のいろいろ



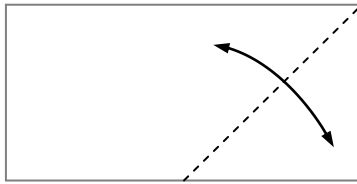
はな き がみ
さくらそうの花の切り紙をやってみよう！

よう い もの
用意する物：おりがみ、はさみ

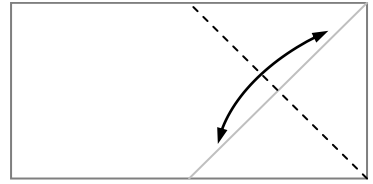
①はんぶんにおる



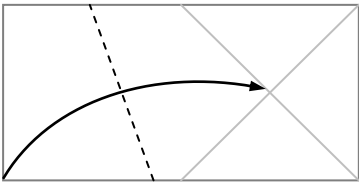
②てんせんで おって、
おりめをつけて
もどす



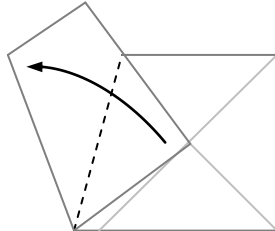
③てんせんで おって、
おりめをつけて
もどす



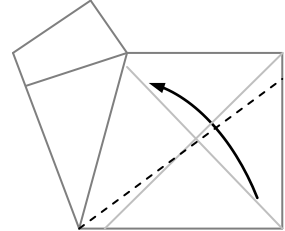
④てんせんで おる



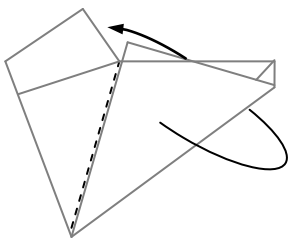
⑤てんせんで おる



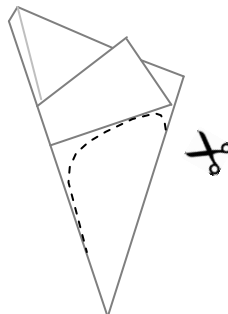
⑥てんせんで おる



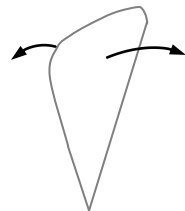
⑦てんせんで うしろに
おる



⑧てんせんで きる



⑨ひろげる



⑩できあがり

はなみ サクラソウの花見

江戸時代の荒川沿いには、尾久の原、野新田、浮間ヶ原、戸田ヶ原といったサクラソウの咲く草はらがありました。花が咲く頃になると、人々はサクラソウの花見に出かけました。尾久の原（現在の東京都荒川区）でのサクラソウの花見の様子を描いた浮世絵を見てみると、着飾った人々がお弁当やお酒を持ち込み、景色を眺めたり、サクラソウの花を摘んだりして過ごしていたことがうかがえます。サクラソウの花と川で捕ったシラウオをめでたい紅白にみたてて、おみやげにすることもあったそうです。

戸田ヶ原が失われてしまった、およそ70年前までは、戸田市内の小学校の1、2年生が戸田ヶ原へ春の遠足で訪れたり、市民がサクラソウの花見を楽しんだりすることが続いていました。

戸田ヶ原の自然再生では、サクラソウをはじめとした野生の草花、鳥のさえずりや虫の音など、みなさんが四季おりおりに自然を楽しめる場所をつくっていかうとしています。



『江戸名所花暦』に描かれた尾久の原のサクラソウの花見



くさき はな いろ さ じき すかん しら
 草木の花の色と咲く時期を図鑑で調べてみよう！

とだ がはら はな
 戸田ヶ原の花ごよみ

くさき なまえ 草木の名前	はな いろ 花の色	さ じき 咲く時期
アマナ		
サクラソウ		
ノウルシ		
ヒキノカサ		
ツボスミレ		
チョウジソウ		
トダスゲ		
ノイバラ		
ハナムグラ		
ノカラマツ		
ヌマトラノオ		
ハンゲショウ		
ノハラアザミ		
ワレモコウ		
サクラタデ		
シロネ		



はな み べんとう こんだて かんが
 お花見弁当の献立を考えてみよう！

とだ な い 戸田の名がついた生きもの

とだ が はら し ぜんさいせい
戸田ヶ原の自然再生では、トダスゲ、トダシバ、トダセスジゲンゴロウという
とだ い だいじ
戸田にゆかりのある生きものも大事にしていこうとしています。

とだスゲは、しよくぶつがくしゃ まきのとみたろう ねん とだ が はら はっけん な
トダスゲは、植物学者の牧野富太郎が1916年に戸田ヶ原で発見し、この名を
つけました。たか 40～80センチメートルになり、5～6月に花を咲かせます。けん
在、さいたまけん ちばけん しずおかけん みえけん くまもとけん み ぜんこくてき ぜつめつ しん
在、埼玉県、千葉県、静岡県、三重県、熊本県だけに見られ、全国的に絶滅が心
ばい配されています。とだ し ない み
戸田市内で見ることができなくなりましたが、ねん あさ
霞市の新河岸川の河川敷に生えていた株をゆずり受け、しみん かたがた だいじ そだ
て、市内のいくつかの場所に植えられています。

とだシバは、ほっかいどう ほんしゅう しこく きゅうしゅう み ひ あ くのさ
トダシバは、北海道、本州、四国、九州で見られ、日当たりのよい草はらに
は 生えます。たか 30～100センチメートルになり、8～10月に花を咲かせます。と
だ が はら ふきん おお は な
戸田ヶ原の付近に多く生えていたことから、この名がつけられました。

とだセスジゲンゴロウは、からだ なが からだ ほそなが からだ
トダセスジゲンゴロウは、体の長さが3.9～4.6ミリメートルで、細長い体
をしたゲンゴロウの仲間です。なかも とだ し あらかわ かせんじき はっけん な
した。日本国内の限られた地域（ちばけん ちいき いばらぎけん とちぎけん ぐんまけん さいたまけん ちばけん どうきょう
茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京
と あいちけん とくしまけん み
都、愛知県、徳島県）でしか見つかっていません。



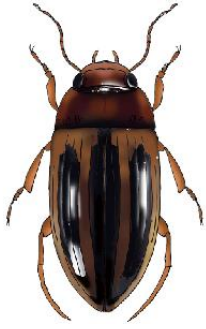
トダスゲ



トダシバ



トダセスジゲンゴロウが^み見つかった^{とどうふけん}いる都道府県^{いろ}に色をぬって^ぬみよう！



みつ^{とどうふけん}か^みつ^{とどうふけん}た^みい^{とどうふけん}る^{とどうふけん}都道府県

いばらぎけん とちぎけん ぐんまけん
茨城県、栃木県、群馬県、
さいたまけん ちばけん とうきょうと
埼玉県、千葉県、東京都、
あいちけん とくしまけん
愛知県、徳島県



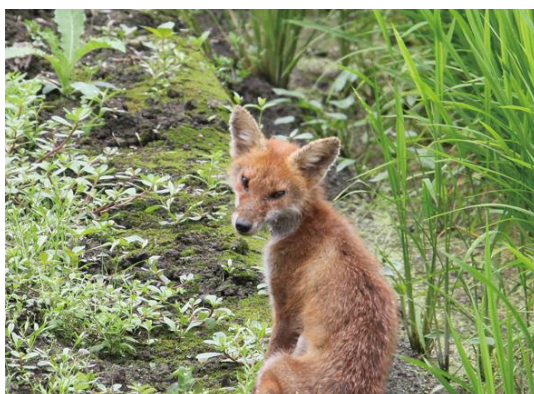
キツネ

戸田市にはキツネが出てくる昔話や伝説が数多く残されています。まちの中に田んぼや畑が広がっていた頃は、家の周りにもキツネがくらしていて、人々にとって身近な存在だったのでしょう。

まちが大きくなり、家や工場、道路が増えるにつれて、まちの中からキツネは姿を消していきました。現在、埼玉県の平野部では、荒川や利根川、江戸川といった大きな川の河川敷が、キツネがくらす上で重要な場所となっています。戸田市内で、今でもキツネがくらしている可能性が高いのは荒川の河川敷です。

キツネは警戒心が強いので、実際に姿を見ることはなかなかできません。そのため、荒川の河川敷で足跡やフン、巣穴などのキツネの生活の痕跡をさがしたり、自動撮影のカメラを置いたりして、キツネがくらしていないかを調べています。

2010年からの3年間の調査で、戸田市の荒川の河川敷でキツネの足跡やフンは見つかりましたが、キツネが子育てしている証拠を見つけることはできていません。戸田ヶ原の自然再生では、キツネが安心して子育てができるように環境を整えていこうとしています。



キツネ



キツネについて本や図鑑ほん すかん しらで調べてみよう！

① 体の大きさからだ おお（高さたか、重さおも、人と比べてどうかなど）

② くらしている場所ばしょ す（巣をつくる場所ばしょなど）

③ 食べ物た もの（何を食たべるか、どんな食たべ方かたをするかなど）



キツネの出でてくる戸田市の昔話とだし むかしばなしや伝説でんせつを読よもう！

戸田市立図書館とだ しりつと しょかんにある『絵本戸田の昔話えほん とだ むかしばなし』、『絵本戸田の伝説えほん とだ でんせつ』には下のお話した はなのしが載のっています。

- ・ 戸田の昔話とだ むかしばなし 第六話だいろくわ 「狐きつねに化ばかされた話はなし」
- ・ 戸田の昔話とだ むかしばなし 第八話だいはちわ 「戸田の狐とだ きつねの話はなし」
- ・ 戸田の伝説とだ でんせつ 第七話だいしちわ 「狐きつねの嫁入よめいり」

カヤネズミ

カヤネズミは、^{からだ} 体の^{おお} 大きさが^{おとな} 大人の^{おやゆび} 親指^{にほん} くらい^{いちばんちい} の日本で一番小さなネズミです。^{どうたい} 胴体^{なが} よりも^お 長い^{とくちょう} 尾が特徴です。

カヤネズミの「かや」は、^{たけ} ススキや^{たか} オギ、^{くさ} チガヤなどの丈の高い草の^{こと} ことです。このような^{しょくぶつ} 植物^は が^{くさ} 生える草^は らに^{くさ} ぐらし、^{くさ} エノコログサなどの草の^{たね} や^{いな} イナゴなどの^{こんちゅう} 昆虫^た を^{なが} 食べ^お ます。^ま 長い^{じょうず} 尾を^{くさ} 巻き^{のぼ} つけて、^{くさ} 上手に^{うえ} 草に^い 登り、^い 草の上を^{どう} 移動^す することができます。

カヤネズミは、^は ススキや^{たて} オギ、^{ほそなが} チガヤなどの葉を^さ 縦に細長く^あ 割き、^{ちよっけい} しっかりと^{まる} 編んで、^{かたち} 直径^す 10cm^す ほどの丸い形^す の^{こそだ} 巣^{きゅうけい} を^{つか} つくり^す ます。この^{くさ} 巣は^{うえ} 子育て^す や^み 休憩^す に使^す われます。^{くさ} 草の上^す につく^み られた^す 巣^す は^す 見^す つけ^す や^す いので、^す 巣^す を^す さ^す が^す ことで、^{しら} カヤネズミ^と が^だ ぐらし^し ている^と か^だ し^あ ら^か わ^か ず^か せ^ん じ^き である^す ことを^み 調べ^す る^す ことができます。^す 戸田市^あ の^ら 荒^か 川^か の^か 河^せ 川^ん 敷^じ では、^す カヤネズミ^み の^す 巣^す が^み 見^つ か^か っ^て います。

カヤネズミが^{この} 好^{くさ} む^は 草^は らに、^き 木^は が^は 生^は え^は て^き きたり、^お オオ^お ブ^お タ^お ク^お サ^お や^お セ^お イ^お タ^お カ^お ア^お ワ^お ダ^お チ^お ソ^お ウ^お と^お い^お っ^た 外^が 国^い から^き 来^き た^お 植^お 物^お で^お 覆^お わ^れ た^り と^す ると、^お カヤネズミ^は ぐらし^て いく^こ と^が でき^ま せ^ん。戸^と 田^だ ケ^が 原^は の^し 自^し 然^{ぜん} 再^{さい} 生^{せい} では、^て 定^て 期^き 的^て に^し 植^て 物^き を^か 刈^と り^と っ^て 草^く は^ら を^い 維^じ 持^ち し^{たり}、^が 外^が 国^い から^き 来^き た^お 植^お 物^お に^お 覆^お わ^れ ない^{よう} に^く 草^く は^ら を^か 管^{かん} 理^り し^て い^こ う^と して^い ます。



カヤネズミ



カヤネズミの^す 巣



と だ し どうぶつ たいじゅう す かん し ら
 戸田市にくらす動物の体重を図鑑で調べてみよう！

どうぶつ な ま え 動物の名前	たいじゅう 体重
カヤネズミ	
イエコウモリ（アブラコウモリ）	
イタチ	
タヌキ	
キツネ	
アズマモグラ	
じ ぶん 自分	



と だ し は く さ た け た か す かん し ら
 戸田市に生える草の丈の高さを図鑑で調べてみよう！

しょくぶつ な ま え 植物の名前	た け た か 丈の高さ
サクラソウ	
ヨシ	
オギ	
ススキ	
チガヤ	
オオブタクサ <small>がいらいしゅ</small> （外来種）	
セイタカアワダチソウ <small>がいらいしゅ</small> （外来種）	
じ ぶん 自分	

カワセミ

カワセミは、^{あたま}頭や^{みどりいろ}つばさは緑色、^せ背は^{あおいろ}青色、^め目の^{わき}脇と^{むね}胸から^{はら}腹は^{いろ}だいたい色と^{からだ}あざやかな^{とり}体をした鳥です。^{からだ}体の^{おお}大きさは^{おとな}大人の^{にぎ}握りこぶしくらいで、^{なが}長くて^{ふと}太いくちばしが^{とくちょう}特徴です。

^{かわ}川や^{いけ}池、^{ぬま}沼などの^{みず}水辺で^べくらし、^{いし}石や^{えだ}枝の^{うへ}上から^{すいちゆう}水中へ^と飛び^こ込み、^こモツゴなどの^{さかな}魚や^{こんちゆう}昆虫を^{つか}くちばしで^た捕まえて^{くうちゆう}食べます。^{つづ}空中にとどまり^と続ける^{かた}飛び方（^{ていくう}停空飛翔：^{ひしょう}ホバリング）を^{きゆうこう}してから^か急降下して^{すいちゆう}水中に^と飛び^こ込むこともあります。^{かわ}川や^{いけ}池、^{ぬま}沼の水が^{みず}汚れて^{よご}食べ物になる^た魚^{もの}などが^{さかな}減ると、^へカワセミは^{くらし}くらし^ていくことができません。

カワセミは、^{すいちよく}垂直な^{つち}土の^{がけ}崖に^{よこあな}横穴を^ほ掘って^す巣をつくり^すます。巣の中で^{なか}卵を^{たまご}産^うみ、^{こうたい}オスと^{たまご}メスが^{かか}交代で^{あたた}卵を抱えて^か温めます。^かふ化した^{おやどり}ヒナのために、^{おやどり}親鳥は^{さかな}魚などを^{つか}捕まえて^{はこ}運びます。^{げんざい}現在、^と戸田市内の^た水辺で^{みず}カワセミが^す巣をつくれる^{つち}土^{がけ}の崖がある^{ばしょ}場所は^{おお}多くありません。

^と戸田市の^{だし}荒川の^{あらかわ}河川敷では、^か一年を^{せんじき}通して^{いちねん}カワセミの^{とお}姿が^{すがた}よく^み見られます。^{ささ}笹^め目川や^{うしろ}後谷公園など、^{こうえん}まち中^{なか}で見られる^みこともあります。^とこれから^と戸田市内で^{だし}カワセミが^{だし}くらし^{ない}ていける^とように、^と戸田ヶ原の^が自然^{はら}再生では、^し水辺に^{ぜんさいせい}人の^{みず}手で^べ土^{ひと}の^て崖^{つち}をつくる^{がけ}ことを^{けいかく}計画しています。

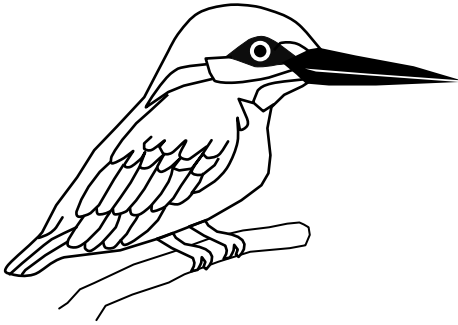


カワセミ

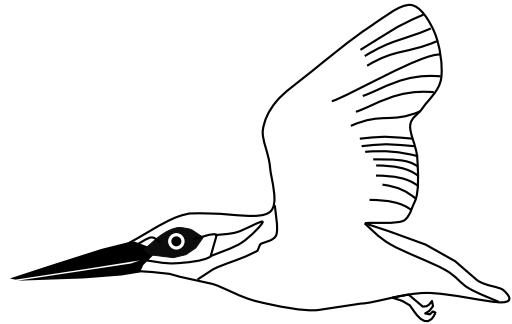


ま^{なか}ちの中でカワセミをさがしてみよう！

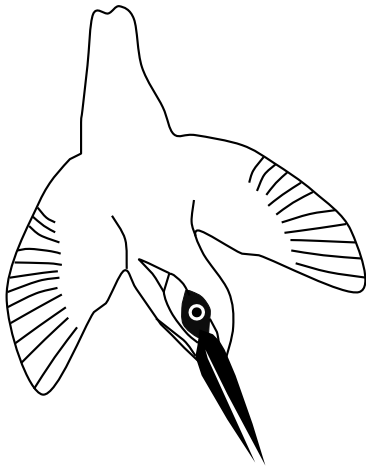
いし^{えだ}や^と枝に止まっているカワセミ



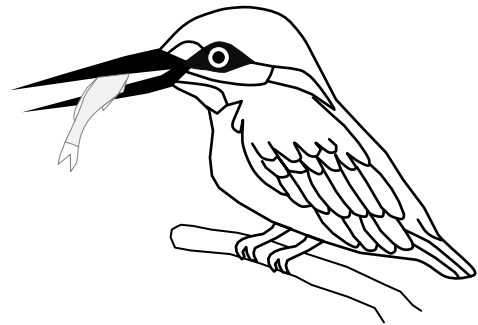
と^と飛んでいるカワセミ



すい^{ちゆう}中^とに^こ飛び込むカワセミ



さ^{かな}な^た魚を食べているカワセミ



と だ し 戸 田 市 に く ら す チ ョ ウ

チョウがくらすためには、幼虫の食べ物、成虫の食べ物、成虫が飛んだり休んだりする場所などがそろっていることが必要です。さまざまなチョウがくらししているかどうかは、まちの自然（草はらや林）の状態を見るものさしになります。戸田ヶ原自然再生エリア第1号地ができた2010年から、どんなチョウが見られるか調べています。

戸田市内では、2012年までに50種のチョウが記録されています。このうち、戸田ヶ原自然再生エリア第1号地での2010年からの3年間の調査では30種が見ついています。さまざまな野生の草花が咲く場所を守り育てることで、さまざまなチョウもくらすようになります。

と だ し 戸 田 市 で 2012年 まで に 記 録 さ れ て い る チ ョ ウ

<u>セセリチョウ科</u>	<u>シロチョウ科</u>	<u>タテハチョウ科</u>
ダイミョウセセリ	キタキチョウ	テングチョウ
ギンイチモンジセセリ	モンキチョウ	カバマダラ
コチャバネセセリ	ツマキチョウ	アサギマダラ
キマダラセセリ	モンシロチョウ	ツماغロヒョウモン
オオチャバネセセリ	スジグロシロチョウ	イチモンジチョウ
チャバネセセリ		アサマイチモンジ
ミヤマチャバネセセリ	<u>シジミチョウ科</u>	コミスジ
イチモンジセセリ	ゴイシジミ	キタテハ
	ウラギンシジミ	ヒオドシチョウ
<u>アゲハチョウ科</u>	ムラサキシジミ	ルリタテハ
ジャコウアゲハ	ミズイロオナガシジミ	アカタテハ
キアゲハ	ミドリシジミ	ヒメアカタテハ
アゲハ	ベニシジミ	コムラサキ
クロアゲハ	ウラナミシジミ	アカボシゴマダラ
ナガサキアゲハ	ヤマトシジミ	ゴマダラチョウ
モンキアゲハ	ツバメシジミ	ヒメウラナミジャノメ
カラスアゲハ	ルリシジミ	ヒカゲチョウ
アオスジアゲハ		サトキマダラヒカゲ
		ヒメジャノメ

太字は戸田ヶ原自然再生エリア第1号地で見ついているチョウ



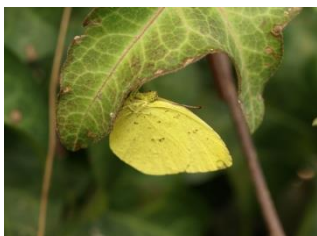
した しゅるい しょくぶつ たまご う
下の5種類のチョウは、どの植物に卵を産むのかな？
てんせん
点線をなぞってみよう！



ギンイチモンジセセリ



アカメヤナギ



キタキチョウ



カナムグラ



ヤマトシジミ



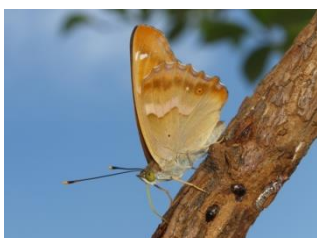
オギ



キタテハ



カタバミ



コムラサキ



メドハギ

これらのチョウは、とだ が はら し ぜん さい せい だい ごう ち み
戸田ヶ原自然再生エリア第1号地で見つかっています。

ミドリシジミとハンノキ

ミドリシジミは、オスのハネの表面が輝く緑色をしたチョウです。成虫は年1回、6月中旬から7月にかけて見られます。オスの成虫は、早朝と夕方にハネをきらきらと輝かせながら活発に飛びます。

ミドリシジミは、埼玉県内に広く見られたことから、埼玉の原風景の象徴として1991年に「埼玉県の蝶」に指定されています。戸田市では、かつて生息していた記録がありますが、近年は確認されていません。

ミドリシジミの幼虫はハンノキの葉を食べて育ちます。ハンノキは、湿地に生える木で、かつてはハンノキの枝に竹竿を渡して刈り取った稲を天日で干すために、田んぼのあぜによく植えられていました。しかし、まちが大きくなるにつれて、湿地や田んぼがなくなり、戸田市全域に普通に見られたハンノキも減ってしまいました。

戸田ヶ原の自然再生では、ミドリシジミが戸田の空にふたたび舞うことを願って、ミドリシジミがくらせる林をつくろうとしています。市民の方々にも協力いただいて、彩湖・道満グリーンパーク内に、たねから育てたハンノキの苗木を植えています。また、ミドリシジミの成虫が花の蜜を吸えるようにアカメガシワも植えています。



ミドリシジミ



まちの中に残っているハンノキ



いえ がっこう まわ
 家や学校の周りでハンノキをさがしてみよう！

は なが はば
 葉 長さが 5～13 センチメートル、幅が 2～5.5 センチメートル

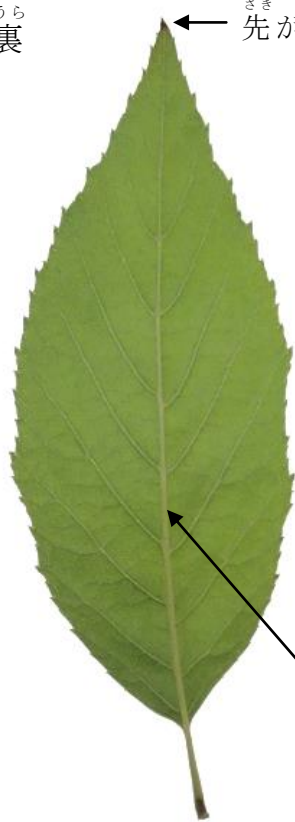
おもて
 表



ふち
 縁がぎざぎざ

け は
 毛は生えていない

うら
 裏



さき
 先がとがる

みやく
 脈のまわりに毛
 がある

み
 実



じゅひ
 樹皮

こま わ め はい
 細かく割れ目が入る



ハンノキは、^{おお}大きくなると^{みき まわ}幹の周りが 60cm、^{たか}高さが 20m ほどになります。

と だ し 戸 田 市 に く ら す ト ン ボ

トンボがくらすためには、幼虫がすごす池や沼、湿地と成虫が飛んだり休んだりする草地や林がそろっていることが必要です。さまざまなトンボがくらししているかどうかは、まちの自然（水辺）の状態を見るものさしになります。戸田ヶ原自然再生エリア第1号地ができた2010年から、どんなトンボが見られるか調べています。

戸田市内では、2012年までに23種のトンボが記録されています。このうち、戸田ヶ原自然再生エリア第1号地での2010年からの3年間の調査では16種が見つかっています。戸田ヶ原自然再生エリア第1号地では、開けた水面で卵を産むトンボなど、さまざまな水辺の生きものがくらするように、水面を覆ってしまった草の一部を刈り取るなどの作業を、市民の方々に協力いただきながら行っています。

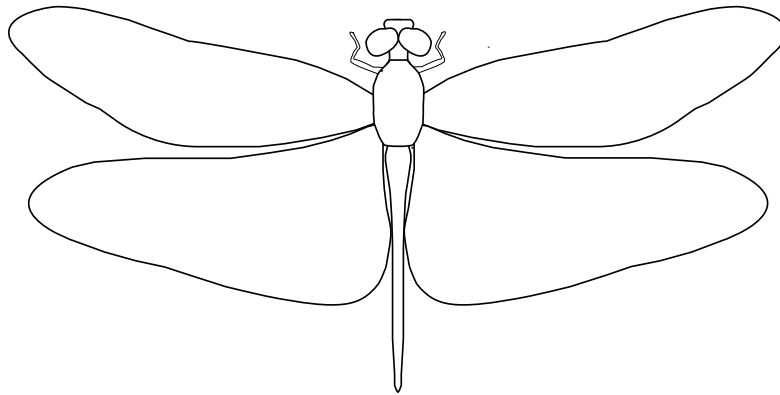
と だ し 戸 田 市 で 2012年 まで に 記 録 さ れ て い る ト ン ボ

アオイトトンボ科	ヤンマ科	トンボ科
ホソミオツネトンボ	ギンヤンマ	チョウトンボ
アオイトトンボ		ナツアカネ
オオアオイトトンボ	サナエトンボ科	リスアカネ
	ウチワヤンマ	ノシメトンボ
イトトンボ科		アキアカネ
キイトトンボ	オニヤンマ科	マイコアカネ
クロイトトンボ	オニヤンマ	コシアキトンボ
セスジイトトンボ		コフキトンボ
アオモンイトトンボ	ヤマトンボ科	ショウジョウトンボ
アジアイトトンボ	オオヤマトンボ	ウスバキトンボ
		シオカラトンボ

太字は戸田ヶ原自然再生エリア第1号地で見つかったトンボ



すかん ちよう しら いろ ぬ
 図鑑でチョウトンボのはねの模様を調べて、色を塗ってみよう！



チョウトンボは、水辺の植物が豊富な池や沼にいらしています。戸田市内ではくらせる場所は多くありません。戸田ヶ原自然再生エリア第1号地で、成虫は見つかっていますが、繁殖はできていないようです。以下のトンボは、2012年の調査で抜け殻が見つかり、第1号地での繁殖が確認されています。



アジアイトトンボ



アキアカネ



ウスバキトンボ



シオカラトンボ

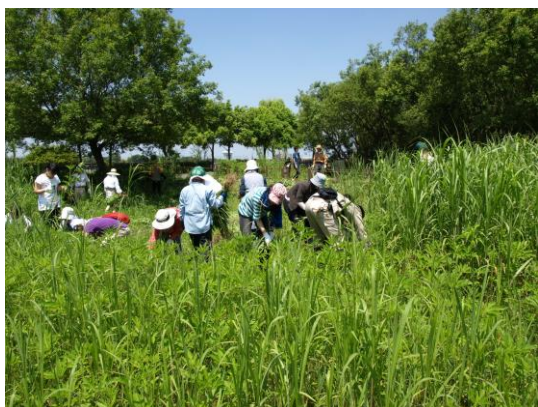
がいらい い 外来の生きもの

と だ し く さ は や し み ず べ と だ し と だ し ひ と も こ
戸田市の草はらや林、水辺には、もともと戸田市にはいなくて、人が持ち込ん
だり、物に混ざって持ち込まれたりした生きもの（外来種）がたくさんいます。
これらの生きものが、もともと戸田市にいた生きもの（在来種）を食べたり、す
みかや食べ物をうばったりすることがあります。

と だ が は ら し ぜ ん さ い せ い だ い ご う ち
戸田ヶ原自然再生エリア第1号地でも、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ、
アライグマ、ウシガエル、アメリカザリガニなど、さまざまな外来の生きものが
かくにん かくにん と だ が は ら し ぜ ん さ い せ い し ぜ ん と も ど
確認されています。戸田ヶ原の自然再生では、もともとの自然を取り戻すために、
がいらい い と く え い き ょう おお かんが
外来の生きもののうち特に影響が大きいと考えられる、オオブタクサやセイタ
カアワダチソウ、アメリカザリガニなどを取り除くようにしています。第1号地
のオオブタクサは、2010年からの除去で2012年にはずいぶんと減りました。

がいらい い もん だ い ひ と も こ は じ がいらい
外来の生きものの問題は、人が持ち込んでしまうことから始まります。外来の
生きものの問題を前もって防ぐには、私たちが外来の生きものを「入れない」
「捨てない」「ひろげない」ことが重要じゅうようです。

- | | | |
|---------|------------|---------------|
| 1. 入れない | あくえいきょう およ | がいらい い にほん い |
| 2. 捨てない | か | がいらい い やがい す |
| 3. 拡げない | ひろ やがい | がいらい い ちいき ひろ |
1. 入れない 悪影響を及ぼすかもしれない外来の生きものを日本に入れない
2. 捨てない ペットとして飼っている外来の生きものを野外に捨てない
3. 拡げない 野外にすでにいる外来の生きものをほかの地域に拡げない



し 民 ン か た が た じ ゃ き ょ
市民の方々とのオオブタクサの除去



がいらい い
 外来の生きものについて
 し
 知ろう！



オオブタクサ

くさ しんにゆう
 草はらに侵入して、すみかをうば
 ってしまいます。花粉症の原因に
 になります。



セイタカアワダチソウ

くさ しんにゆう
 草はらに侵入して、すみかをうば
 ってしまいます。



アライグマ

こんちゆう どうぶつ た
 カエルや昆虫などの動物を食べ
 たり、すみかをうばってしまいま
 す。



ウシガエル

くち はい おお
 口に入る大きさであれば、ほとん
 どの動物を食べます。



アメリカザリガニ

ざっしよくせい みず なか しよくぶつ こんちゆう
 雑食性で水の中の植物や昆虫を
 食べます。

とだ がはら しぜんさいせい だい ごうち 戸田ヶ原自然再生エリア第1号地

2010年2月に、彩湖・道満グリーンパーク内に「戸田ヶ原自然再生エリア第1号地」をつくりました。四季おりおりに、野生の草花、鳥、虫など自然を楽しむことができる場所になるよう、守り育てる活動を進めています。



【アクセス】 JR 埼京線または武蔵野線武蔵浦和駅より「下笹目 行」バス乗車、「彩湖・道満グリーンパーク入口」下車徒歩 10 分

JR 埼京線 北戸田駅より toco バス美笹循環乗車、「道満」下車徒歩 8 分

とだ がはら しぜんさいせい 戸田ヶ原自然再生キャラクター「とだみちゃん」

戸田市の自然を見守る妖精をイメージし、戸田ヶ原の「とだ」と、見守るの「み」から「とだみちゃん」と名付けられました。



◇とだ はら っばにくらす 妖精

◇からだ おおきさを かわえられる

(大きくなったり、小さくなったりできる)

◇サクランソウの花をあしらった服と帽子を着ている

◇トダスゲに乗って空を飛ぶ

◇ストローで花の蜜を吸う

◇キツネやカヤネズミ、カワセミなど生きものと
会話することができる

戸田ヶ原ワークブック

平成 25 年 10 月

戸田市 環境経済部 環境政策課

作成・写真提供：公益財団法人 埼玉県生態系保護協会